

中学生の「税についての作文」

令和4年度中学生の「税についての作文」(主催:税を考える週間実行委員会)に、荒尾・玉名地域の中学生から1,148編の応募があり、本市からは次の4人の作品が優秀作品に選ばれました。その中から、玉名税務署長賞を受賞した、四中3年・川原愛美さんの作品をご紹介します。

優秀作品紹介

■玉名税務署長賞

「税金と明るい未来」
四中3年 川原 愛美さん

■荒尾市長賞

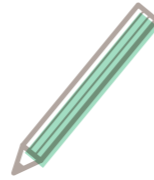
「「生きる」を支える税金」
四中3年 岩尾 凱斗さん

■荒尾市教育長賞

「生活を支える税のこと」
三中3年 堀前 美羽さん

■荒玉地区宅建業税務協議会会長賞

「租税教室で学んだこと」
海陽中3年 吉田 千晴さん



■玉名税務署長賞
「税金と明るい未来」
四中3年
川原 愛美さん

私は先日学校で租税教室を受けました。講師の話から税金の種類や内容を知ることが出来た。私は「税」というと消費税くらいしか思いつかなかった。しかし「税」には所得税や自動車税、たばこ税、酒税など私たちの身の回りにはたくさん種類「税」があることがわかった。このたくさん種類「税」はどんなことに使われているのだろうか。

税金は様々な国の公共サービス、民生費や衛生費など私たちが健康に安全に生活できる支えになっている。内閣総理大臣をはじめ、国会議員や地方議員、市役所の職員や警察官、消防士などの公務員の給料のために使われる。新型コロナウイルス感染症の感染拡大対策として政府が全世帯に配布した布マスク「アベノマスク」も私たちの税金である。

日本では一番税金が使われているのは介護、福祉、医療や年金、生活保護などの「社会保障関係費」だ。私が特に興味を持った税金の使用は「民生費」だ。民生費とは、社会福祉の向上のために、暮らしに困っている人を援助したり、身体の不自由な人や身寄りのない高齢者のために施設をつくることに使われている。祖父のことが頭に浮かんだ。なぜなら祖父は八十八歳で遠方に一人で住み、足や身体が不自由なため車いすを使用しているからだ。要介護三でストーマ使用のため訪問介護の方が来て、体調管理をしてくれる。ケアマネジャーさんやヘルパーさんが食事の用意や掃除など身の回りの世話をしてくれている。祖父が家で生活するために必要な車いす、介護用ベッド、歩行器は安い金額でレンタルすることができ、介護タクシーを使用して病院へ通院することもできる。このサービスの一部も税金でまかなわれていると知り、私はとても驚いた。

日本は急速に少子高齢化が進んでいる。人口に占める高齢者の割合が増えると社会保障関係費が増加する。私は学校で車いす体験をした際に少しの段差でも進むことが困難で、段差がスロープに代わる事で進みやすくなった。一人で車いすに乗って進むことはとても大変で介護の人がいることの有難さを感じた。様々な場所にスロープや手すり、エレベーターなどバリアフリー化が広まって欲しい。このような様々な社会保障を充実させるためには多額の予算がかかる。そのお金は私たちの税金から負担される。だから消費税が増税することには私たちが安心して生活するために必要なことではないだろうか。消費税は買い物をするすべての人が公平に必ず納める税金だからだ。高齢者や身体の不自由な人、苦しんでいる人が笑顔で生活できる国にするために、皆が税金にもっと関心を持ち、税金の大切さを理解することが大事だ。皆が安心して暮らせる未来のために。



10月に徳山梨園でジャンボ梨(新高)を収穫し、その梨を「事故なし」とかけて学校前で配付する、「事故なしキャンペーン」を実施しました。



荒尾市で唯一、「緑の少年団」を組織し、活動しています。11月には、地域のみなさんと花壇に花を植えました。



人権学習での学びを「荒尾市人権フェスティバル」で発表しました。



3年ぶりの修学旅行で、長崎など県外へ行くことができました。



清里小の自慢の先生は、児童や先生の意見が致し、魅力ある学校づくりに取り組む、校長先生が選ばれました！

「清里小は、まじめで優しい子どもたちばかりです。家族をはじめ、地域のみなさんから、たくさん愛情を注いでもらいながら成長しています。これからも、子どもたちの優しさや笑顔を市内いっぱい届けたいです。児童のみなさん、笑顔の登校・感謝の下校ができる学校と一緒に、つくっていきましょう。」と校長先生は話していました。



もりやま まさのり
森山 資典先生

わたしたちの学校自慢

今月の学校自慢

清里小学校



木々に囲まれた、緑豊かで鳥のさえずりや虫の声がたくさん聞こえる清里小は、全校児童86人の小さな学校です。「笑顔いっぱい」をキーワードに、「笑顔の登校・感謝の下校」を目指して、総務委員会が毎日正門であいさつの声を響かせ、あいさつの心地よさをアピールしています。「いつでも・どこでも・だれにでも・何度でもあいさつできる子ども」は、清里小の自慢の一つです。

本年度は、「荒尾市人権フェスティバル」でのステージ発表や、交通事故防止を呼びかける手紙と荒尾梨をドライバーさんに配る「事故なしキャンペーン」、県外への修学旅行など、コロナ禍で中止となっていた行事が3年ぶりに実施できました。少人数の学校ですが、地域や保護者のあたたかい支援のもと、子どもたちは仲良く笑顔いっぱい、さまざまな活動に取り組んでいます。

児童が選んだうちの学校自慢!

仲の良さが自慢の学校です！
休み時間は学年関係なく外で一緒に遊んでいて、児童同士だけでなく、先生たちとも仲良しです。10月には校舎の色がミントグリーンになりました！



総務副委員長
ひらた じょう
6年生 平田 丈さん